



ヤンゴン 第一医科大学

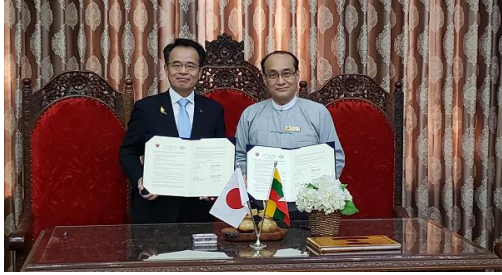


UNIVERSITY OF MEDICINE 1, YANGON

●学部学生 約2,940人 ●大学院生 約1,334人 ●教職員 約1,046人

ホームページ <http://um1alumni.org>

交流協定締結年月日：2019年12月9日 主管学部：医学部



協定調印式の様子



<https://um1alumni.org/>より抜粋

国際交流の特色

1907年に旧ラングーン総合病院付属の政府医学校（Government Medical School）として設立された、ミャンマーで最も古く権威のある医科大学であり、1965年から2018年までに15536名の医学部卒業生と4687名の大学院修了者を輩出している。現在年間約500人の学部学生、約200名の大学院生をそれぞれ受け入れている。なお、学部教育は7年間行われる。ヤンゴン第一医科大学はランマドー（臨床実習中心）、ピロード、タトンロード（臨床実習前教育中心）の3つのキャンパスを擁しており、Yangon General Hospital、New Yangon General Hospital、Central Women Hospital、Yangon Children Hospitalをはじめとしてヤンゴンにおいて10病院、さらに地域の数か所の病院で臨床教育が実施されている。特にNew Yangon General HospitalはJICAの支援によって開設される等、日本との結びつきが強い。

交流実績（平成31年度～令和2年度）

年度	H31	R2
受入・派遣		
学生の受入	0	0
学生の派遣	3	0
研究者・職員の受入	3	0
研究者・職員の派遣	11	0
オンライン交流参加者（本学）		4
オンライン交流参加者（相手機関）		4



協定調印後の記念写真（総長Prof. Zaw Wai Soe、副総長Prof. Myint Myint Nyeinらと）



歓談の様子

教員からの声

ヤンゴン第一医科大学とは、医学部小児科学への大学院生受入（平成27年10月に研究生として受入、28年4月入学）を契機として、主に医学部を中心として活発な交流が開始されました。平成29年度および30年度医療技術等国際展開推進事業に採択され、新生児黄疸による後遺症を減少させるプロジェクトとして、関連病院であるCentral Women's Hospital（ヤンゴン）の新生児科医師を招聘して香川大学医学部附属病院および四国こどもとおとなの医療センターにて研修を行うとともに、本学医学部教員を派遣して指導に当たり（延べ人数、派遣：25名、受け入れ：4名）、大きな成果をあげています。また、JSPS平成30年度研究拠点形成事業「環境問題に対処するトランスディシプリナリー研究・実践のための国際ネットワーク構築」（愛媛大学、高知大学と共同で実施）に、ヤンゴン第一医科大学が協力大学として参画していることも特筆されます。さらに、2017年度から2019年度さくらサイエンスプランにて若手研修者計7名を招聘し、小児周産期医療や生活習慣病関連分野の研修を実施しています。こうした交流実績に基づき、2019年12月9日に交流協定を締結するに至りました。

ヤンゴン第一医科大学では、広く生命科学に関わる研究も活発に実施されており、香川大学の複数学部による相互交流や、ヤンゴン第一医科大学のネットワークを活用したアセアン諸国との交流の推進の可能性も期待されます。令和2年に勃発したコロナ禍に加えて、現地の社会状況の影響によって相互交流はほぼ停止した状態にあります。早期の交流再開を期待しています。

医学部国際交流委員会委員長・教授 和田健司